

## エネルギーの現在と未来

八戸工業大学第二高等学校  
普通科 1年 桶本 明莉

今の日本はエネルギー資源に乏しく、エネルギー資源のほとんどを海外からの輸入に頼っている。そんななかで青森県は多くの面で重要な役割を期待されている。

青森県には建設計画中のものを含め、三つの原子力発電所がある。その一つが東通原子力発電所だ。東北電力株式会社「東通原子力発電所」の1号機は平成23年の2月より定期検査のため停止していたが、同年3月の東日本大震災により現在も停止している。また、現在建設中の電源開発株式会社「大間原子力発電所」も東日本大震災の影響を受け本体工事を中止していたが、平成24年10月に工事が再開された。

青森県は、多くの原子燃料サイクル施設が立地している。上北郡六ヶ所村大石平地区にはウラン濃縮工場と低レベル放射性廃棄物埋設センターが、同じく六ヶ所村弥栄平地区に再処理工場、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、建設中のMOX燃料工場などがある。他にもむつ市には使用済燃料中間貯蔵施設があり、青森県は、国だけでなく、日本原燃株式会社や電気事業連合会などと基本協定を締結するなど、日本の原子力発電に対してたくさん力を貸している。私はこれからもっと青森県が国や企業などと協力し、日本の役に立ってほしいと思う。しかし、放射線による被害が起きないように、住民の安全を配慮することだけは忘れないで取り組んでほしい。

これからの未来に向け、再生可能エネルギー、原子力などを含めたエネルギーミックスの構築が大切だ。エネルギーミックスとは、2030年に日本が目指したい電源構成を指し、さまざまな発電方法を組み合わせて社会に必要な電力を供給することだ。政府は最適化へ向けた4つの観点を「3E+S」と表現し、理想の形であるとしている。実現に向けて大切なのは再生可能エネルギーや省エネ、低炭素への取り組みの強化、原子力発電の安全や使用済み燃料対策だ。青森県には六ヶ所村に日本最大級の風力発電所が発電量1位を取ったり、原子燃料サイクル施設が多くあったりと、エネルギーミックスにも大きな役割を果たしてくれることが期待できるのではないかと私は思う。

また、政府は2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロ

にするというカーボンニュートラルを目指すことを宣言した。カーボンニュートラルの実現には温室効果ガス排出量の削減、温室効果ガスを吸収してくれる森林の保全、技術のさらなる発展などが必要となる。実現に向けて日本がすべき取り組みの一つに、再生可能エネルギーの利用が大切だとされている。青森県は、風力発電は全国屈指の発電量を誇っている。水力発電と太陽光発電は全国と比較すると導入量・設置認定量は少ない状況にあるが、近年導入が進められている。地熱発電は、県内5カ所に発電計画があるなど、再生可能エネルギーを真剣に考え、取り組んでいるため、さらにこの活動が広まり、多くの再生可能エネルギーを発電できる県になってほしいと思う。

今回、青森県のエネルギー関係について調べてみて、青森県は日本のエネルギーの将来に多くの役割を果たしていることを初めて知った。青森県がこれからの未来に関わるのは県民としてとてもうれしく思う。青森県にあるエネルギー施設が、将来にどんないい影響を及ぼしてくれるのか期待で胸が膨らんでいる。

◎出典・参考

\*青森県 原子力立地対策課

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/energy/g-richi/>